

## 全日本実業団が10倍面白くなるコラム⑦

リオ五輪代表も、来季以降の代表候補も、駅伝注目選手も出場  
トラック長距離種目を満喫できる大会

全日本実業団の特徴の1つに、長距離種目を存分に楽しむことが挙げられる。

その年の国際大会代表（今年ならリオ五輪）はもちろん、来季以降に代表入りしそうな有望選手も必ず出場する。「この選手が来年、代表に来るぞ」と予想しながら観戦できるのだ。

シーズン前半は不調で代表入りを逃した選手が、夏を越えて復調してくることも多い。3カ月前とは別人のような走りを見ると、この選手は頑張ってきたんだな、と実感できる。

10月から始まる駅伝シーズンで注目している選手の走りを、トラックで見れば駅伝がさらに面白くなる。昨年まで高校駅伝、大学駅伝で活躍したルーキーたちの走りも要チェックだ。複数の選手が好走したチームは、駅伝でも上位が期待できる。

### ●リオ五輪代表は専門外の種目に出場

リオ五輪代表が3人エントリーしたが、3人とも五輪とは異なる種目を選択した。男子5000m&10000mに出場した村山紘太（旭化成）は1500mに、リオは10000mだった設楽悠太（Honda）は5000mに、女子マラソン代表の伊藤舞（大塚製薬）は5000mに出場予定だ。

村山は1500mでも日本人トップ候補である。3分39秒56（日本歴代9位）の記録を持ち、昨年全日本実業団でもR・ケモイ（小森コーポレーション。ジュニア世界記録保持者。リオ五輪ケニア代表）らを相手に先頭で走り、3分43秒08で日本人トップの3位となっている。

今年の全日本実業団の目標を、村山は次のように話す。

「タイム、順位とも前回は超えていきたい。あわよくば、日本記録（3分37秒42）にも挑戦したいです。世界との差を埋めるにはスピードが大事だと思うので、1500mでスピードを研いて5000m、10000mで勝負できるようにしていきたい」

昨年0.35秒差で日本人2位の楠康成（コモリコーポレーション）ら、中距離ランナーたちは意地でも負けられない。勝負にも注目したい種目である。

伊藤のリオ五輪は直前の故障も影響して46位と振るわなかったが、競技をやめる意思はもともとなかった。全日本実業団を“リスタート”の大会と位置づけ、今後のプランをいつもの明るさで語ってくれている。

「駅伝シーズンが始まるので、5000mに出てスピードを戻していきます。今後の目標はマラソンで自己ベスト（2時間24分42秒）を更新すること。マラソン（のメジャーレース）で優勝がまだないので、優勝できるように頑張りたい」

全日本実業団では5000mの1組にエントリーされた。タイム上位の組ではないが、そこでトップ争いができれば幸先の良い再スタートといえる。本人の目標は「組でトップになること」だ。



リオ五輪代表たちの走りは、継続して見守っていきたい。

### ●注目したい来季以降の代表候補

来季以降に、初の日本代表入りの可能性がある選手もエントリーしている。いわゆる“化ける”可能性のある選手たちだ。

最近では一昨年の鈴木亜由子（JP日本郵政グループ）が代表的な例だろう。名大から入社1年目で、シーズン前半は故障からの回復トレーニングが中心で代表入りはできなかったが、9月の全日本実業団5000mで15分14秒96と翌年の北京世界陸上標準記録を突破。昨年の世界陸上5000m9位につなげた。

今年的女子では石井寿美（ヤマダ電機）、横江里沙（豊田自動織機）、松田瑞生（ダイハツ）らが来季以降の代表候補。3人とも10000mにエントリーしてきた。

石井は福島県の学法石川高から入社して3年目。昨年のクイーンズ駅伝5区に抜擢されたときは驚かされたが、区間4位と予想を上回る好走を見せた。そして今年の日選手権5000m4位、10000m6位で、5000mではリオ五輪代表3選手に次ぐ順位に食い込んだ。7月には10000mで31分48秒24の自己新をマークし、こちらもリオ五輪代表3人に次ぐシーズンベストだ。

昨年のクイーンズ駅伝5区で区間賞を取った横江は、1500mで4分16秒90のスピードを持つ。14年7月の手術から約1年、レースに出られなかったが、その間に新しい動きを身につけた。7月には15分18秒11の今季日本最高をマーク。リオ五輪代表3人をシーズンベストでは上回った。

松田は日選手権10000m4位で、石井と同様にリオ五輪代表3人に次ぐ順位。まだ31分台はないが、5000mやハーフマラソンでも上位に入る安定感も出てきた。その潜在能力は林清司監督も高く評価している。

男子では10000mに出場する市田孝、大六野秀敏、茂木圭次郎の旭化成トリオにブレイクの予感がある。なかでも、シーズン前半のトラックで充実ぶりを見せたのが市田だった。日選手権で10000mが4位、5000mが6位。10000mはリオ五輪代表3人に次ぐ順位である。

7月には3000m障害でも8分40秒29で走り（それも自身初3000m障害）、この種目でも来季の代表入りを狙える力を示した。さらにその4日後には10000mで、自身初の27分台となる27分53秒59で走って見せた。

市田は中学時代に、3000mで全日中とジュニアオリンピックの2冠。高校では全国高校駅伝で優勝（1区区間2位）と大活躍した。大学でも日本インカレ10000m3位と、世代トップレベルの力を見せてはいたが、1学年上の設楽兄弟（兄の啓太＝コニカミノルタ＝と弟の悠太＝Honda）や、同学年の村山兄弟（兄の謙太と弟の紘太＝ともに旭化成）らの活躍に差をつけられていた印象はある。中学チャンピオンが、実業団2年目で代表を狙う位置に巻き返してきた。

日選手権10000mの旭化成勢は、リオ五輪代表の村山の2位を最高に、市田4位、茂木5位、大六野6位と4人が入賞した。茂木は東京の拓大一高から入社して3年目。今年2月の丸亀国際ハーフマラソンで、1時間00分54秒の日本歴代6位をマークした期待の20歳だ。

大六野は昨年10000mで27分46秒55と27分台に入り、今季は日選手権5000mでも3位に入った。「スピード型というよりも持久型」という旭化成スタッフの評価だが、それでいてトラックでこれだけの実績を残している。大きく飛躍する下地がありそうだ。

## ● 駅伝に向けてチーム戦力をチェック

これだけ粒ぞろいの旭化成はニューイヤー駅伝でも優勝候補に挙げられるが、旭化成に限らず、駅伝に向けての戦力を確認できる。

駅伝2連勝中のトヨタ自動車は、2年連続6区区間賞で、連続優勝の立役者となった田中秀幸が5000mにエントリー。主要区間候補の早川翼と宮脇千博は10000mに出場する。

宮脇は資格記録が低いため1組に入っているが、全日本実業団は27分41秒57の自己(タイ)記録を出した駿の良い大会。ここで復調を示せば、3年連続(2012~14年)区間賞を取ったことのあるニューイヤー駅伝での活躍が、いっそう期待できる。

駅伝前回2位のコニカミノルタは、3区区間2位だった菊地賢人が10000mに、1区区間3位だった西池和人が5000mに、そして新人の神野大地も10000mにエントリーした。

神野は箱根駅伝山登りの5区の活躍で、“山の神”と言われた選手だが、実業団レベルとなると1年目から活躍するのは難しい。そう思われた神野が7月には、10000mで28分17秒54まで記録を上げて関係者を驚かせた。神野が全日本実業団で上位に食い込むようだと、コニカミノルタの3年ぶりのV奪回に大きな戦力となる。

トヨタ自動車、コニカミノルタ、旭化成の3強以外では、日立物流が充実してきた。全日本実業団5000mでは1組出場の牟田祐樹、2組の市川孝徳、3組の柳利幸と、3人とも今年に入って自己新をマークしている。特に市川の13分28秒91は、今季日本最高タイムだ。

また、10000mにエントリーした浅岡満憲は、10000mで7月に27分59秒72とチーム日本人最高記録を樹立。コンディションに恵まれた1つのレースで、自己新記録が量産されるケースは多い。その点今季の日立物流は、全員が別レースで自己新を出してきた。チームの底力アップを物語っている。

女子では昨年のクイーンズ駅伝4位のヤマダ電機が、前述の石井に加え、昨年まで日本選手権10000m2連覇の西原加純(アジア大会&北京世界陸上連続代表)、2年前の日本選手権10000m2位の竹地志帆と、主力3人を10000mにエントリーした。駅伝初制覇に向けて、戦力の充実をアピールする。

駅伝前回2位の豊田自動織機は前述の横江に加え、薮下明音と林田みさきが10000mにエントリーした。また、2区で区間賞&区間2位と快走を続けている福田有以は、5000mに出場する。

薮下は昨年メンバーから外れたが、駅伝1週間後に10000mでリオ五輪標準記録を破った。林田は一昨年の3区から、昨年は調子を落として6区に回った選手で復調が期待されている。今年の日本選手権を欠場した福田は、1500mではなく5000mを復帰レースに選んだ。

横江も含めた4人は、全員が1500mで4分20秒を切るスピードを持つ。全日本実業団の結果次第で、ヤマダ電機と並んで駅伝の本命に挙げられそうなチームだ。

積水化学とユニバーサルエンターテインメントも駅伝の有力候補である。

積水化学はリオ五輪5000m代表の尾西美咲は出場しないが、2年前のアジア大会5000m代表だった松崎璃子と、3000m障害でリオ五輪標準記録に迫った森智香子(昨年6区区間賞)が5000mにエントリー。10000mには、初



マラソンの名古屋ウィメンズを2時間25分09秒で走った桑原彩が出場する。さらには、3区で区間賞を取ったことのある清水裕子が5000mに出場予定で、清水が故障による低迷から復活すれば駅伝の優勝が見えてくる。

昨年3位のユニバーサルエンターテインメントは、5000mにエントリーした鷺見梓沙の走りがチームの勝敗を左右する。昨年の北京世界陸上5000m代表だったが、駅伝を故障で欠場した。本来なら、昨年の5区区間3位の和久夢来（5000mにエントリー）と、長距離区間を担う選手である。10000mに出場予定の中村萌乃、5000mの青山瑠衣も要注目の存在で、12年大会優勝時に区間賞を取っている。

日本代表と代表候補の走りを見られるのと同時に、駅伝を見る楽しさも倍増するのが、全日本実業団である。